

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 28 年 10 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 10 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,172 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲9.6%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,735 円（伸び率▲7.8%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,579 億円（伸び率▲1.7%）、薬剤料が 4,582 億円（伸び率▲12.0%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 728 億円（伸び率▲1.7%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,333 円	2.86 種類	22.3 日	84 円
伸び率（%）	▲11.5	▲1.2	▲0.0	▲10.4

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,768 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲573 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 819 億円（伸び幅▲136 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 32 滋養強壮薬の▲3 億円（総額 42 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,768 億円 （▲573 億円）	21 循環器官用薬 （819 億円）	11 中枢神経系用薬 （634 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（527 億円）
0 歳以上 5 歳未満	43.3 億円 （▲5.9 億円）	44 アレルギー用薬 （19.4 億円）	61 抗生物質製剤 （10.4 億円）	22 呼吸器官用薬 （6.8 億円）
5 歳以上 15 歳未満	97.6 億円 （▲6.4 億円）	44 アレルギー用薬 （42.1 億円）	11 中枢神経系用薬 （16.0 億円）	61 抗生物質製剤 （15.8 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,318 億円 （▲196 億円）	11 中枢神経系用薬 （274 億円）	21 循環器官用薬 （249 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（194 億円）
65 歳以上 75 歳未満	938 億円 （▲175 億円）	21 循環器官用薬 （248 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（157 億円）	11 中枢神経系用薬 （110 億円）
75 歳以上	1,371 億円 （▲190 億円）	21 循環器官用薬 （319 億円）	11 中枢神経系用薬 （234 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（171 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,735 円（伸び率▲7.8%）で、最も高かったのは京都府（10,487 円（伸び率▲9.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,675 円（伸び率▲8.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは長崎県（伸び率▲5.7%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率▲17.0%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】728 億円（伸び率：▲1.7%、伸び幅：▲13 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	66.9%	+7.2%
薬剤料ベース	15.9%	+1.7%
後発品調剤率	67.5%	+4.3%
（参考）数量ベース（旧指標）	44.9%	+4.6%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.7%	+13.8% （5 歳以上 10 歳未満）	▲9.8% （70 歳以上 75 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.9%	16.7% （75 歳以上）	11.8% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	645 億円 （▲13 億円）	21 循環器官用薬 （178 億円）	23 消化器官用薬 （107 億円）	11 中枢神経系用薬 （75 億円）
0 歳以上 5 歳未満	7.4 億円 （+0.6 億円）	22 呼吸器官用薬 （3.0 億円）	61 抗生物質製剤 （1.7 億円）	44 アレルギー用薬 （1.6 億円）
5 歳以上 15 歳未満	14.7 億円 （+1.9 億円）	44 アレルギー用薬 （6.0 億円）	61 抗生物質製剤 （3.7 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.9 億円）
15 歳以上 65 歳未満	216 億円 （▲3 億円）	21 循環器官用薬 （50 億円）	11 中枢神経系用薬 （33 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）
65 歳以上 75 歳未満	162 億円 （▲10 億円）	21 循環器官用薬 （58 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	245 億円 （▲3 億円）	21 循環器官用薬 （70 億円）	23 消化器官用薬 （49 億円）	11 中枢神経系用薬 （31 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,030 円	1,377 円（北海道）	868 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.3%	+5.1%（徳島県）	▲4.8%（山形県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	66.9%	78.8%（沖縄県）	57.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.9%	20.4%（鹿児島県）	12.9%（徳島県）
後発医薬品調剤率	67.5%	77.1%（沖縄県）	60.9%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	44.9%	55.9%（沖縄県）	38.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 10 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。